

# 「文化社が撮影した敗戦直後の東京」

## 写真展



この写真展は、文化社に所属したカメラマンたちが、敗戦直後の1945年11月から翌46年11月までの1年間に撮影した写真を展示するものです。文化社は、戦時期、陸軍参謀本部の下で、主に対外向けの写真宣伝物を制作していた東方社の後継団体で、1945年10月に発足しました。

本写真展で展示する写真は、東京大空襲・戦災資料センターが所蔵する「青山光衛氏旧蔵東方社・文化社関係写真コレクション」と東方社・文化社のカメラマンだった菊池俊吉・林重男両氏のご遺族が所蔵されている写真ネガの中から選びました。文化社が撮影した写真は多岐にわたりますが、今回はその中から、焼跡の街に並ぶ露店や通りを行き交う人々、戦災者たちの収容施設での暮らし、復興祭に興じる人々、街頭での医療活動、公園などで遊ぶ子どもたち、焼跡に建設される仮設の住宅や店舗など、東京の街の様相と人々の暮らしをテーマにしたものを展示します。

これらの写真の中には、敗戦直後の厳しい生活と混沌とした社会を記録し、戦争と敗戦がもたらした苦難の大きさを写し出したものが多く含まれています。またその一方で、戦争の重圧から解き放たれ、占領下ながらも新時代を謳歌する人々の明るさと復興へ向けた街の賑わいを活写しているものもあります。これまでに知られている占領期の写真の多くは、占領軍関係者が撮影したのですが、文化社の写真は、日本人の関心と目線で敗戦直後の東京の姿を切り取っています。文化社の写真は多くが未公表でしたが、今回、菊池・林両カメラマンのご遺族および勉強出版株式会社のご協力を得て、この写真展を開催することができました。



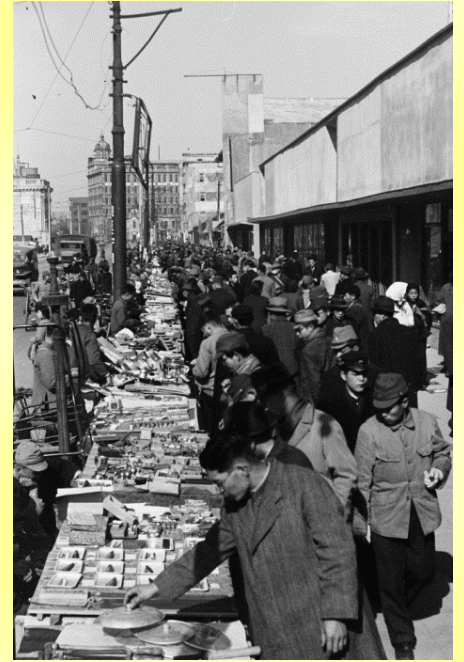
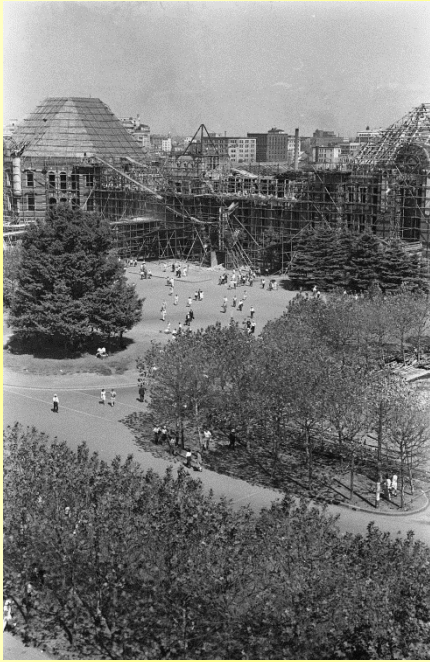
戦後70年を経て、新たな安全保障体制の構築が進められる中、日本は今、岐路に立っています。文化社の写真に刻まれた戦後日本の原風景をみつめながら、これから日本が進むべき道について考えていただければ幸いです。

- <会期> 2016年7月27日(水)～9月4日(日)  
<会場> 東京大空襲・戦災資料センター 2階会議室  
<開館時間> 12時～16時 <休館日> 月曜日・火曜日 <アクセス> 裏面を参照  
<入館協力費> 一般：300円 中・高校生：200円 小学生以下：無料  
<問合せ先> ☎：03-5857-5631 <Web> <http://www.tokyo-sensai.net/>

※なお、会期中に記念講演会が開催されます。詳しくは裏面をご覧ください。



— 展示写真のご紹介 —



(左上) 改修中の東京駅  
 (中央上) 上野厚生会館に収容されている母子たち  
 (中央) 品川駅ホームの引揚者たち  
 (右上) 銀座の歩道に並ぶ露店  
 (左下) 上野駅前を通る神輿と山車  
 (右下) 街頭で種痘を受ける女の子  
  
 (表面上) 銀座4丁目交差点付近  
 (表面下) ゴム跳びをして遊ぶ女の子たち

記念講演会のご案内

2016年7月31日(日) 14時~16時(開場13時)

会場 東京大空襲・戦災資料センター 2階会議室

講師 井上祐子(当センター主任研究員、京都外国語大学非常勤講師)

「文化社の足跡と文化社写真の歴史的意義」

山辺昌彦(当センター主任研究員)

「文化社の写真にみる東京復興」

定員 当日先着50名

<アクセス> 東京大空襲・戦災資料センター

東京都江東区北砂1丁目5-4(位置は右図参照)

- ▼JR「秋葉原駅」、2番バス乗場から都バス《葛西駅行》(秋26) → 「北砂1丁目」下車2分
  - ▼JR「錦糸町駅」、3番バス乗場から都バス《東陽町行/東京駅丸の内北口行》(東22) → 「扇橋2丁目」下車10分
  - ▼東京メトロ東西線「東陽町駅」、5番バス乗場から都バス《錦糸町行》(東22) → 「扇橋2丁目」下車10分
  - ▼JR/東武「亀戸駅」、2番バス乗場から都バス《なぎさニュータウン行/西葛西駅前行》(亀29) → 「大島1丁目」下車13分、または「北砂3丁目」下車7分
  - ▼東京メトロ半蔵門線/都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」3番バス乗場から都バス《葛西駅行》(秋26) → 「北砂1丁目」下車2分
  - ▼東京メトロ東西線「葛西駅」、4番バス乗場から都バス《秋葉原駅行》(秋26) → 「北砂1丁目」下車2分
  - ▼都営地下鉄新宿線/東京メトロ半蔵門線「住吉駅」、または都営地下鉄新宿線「西大島駅」から徒歩18分
- \* 錦糸町や東陽町からタクシーをご利用の場合は、「清洲橋通りの岩井橋東詰交差点を左折、岩井橋クリニックの隣り」とお伝えください。 \* 駐車場はありません

